

## 小麦圃場で4月に広葉雑草が出てても除草剤の体系処理で徹底防除できる！

小麦圃場において、4月以降に広葉雑草が繁茂して減収する事例が増加している。そこで、通常の除草剤処理（土壌処理剤）に加え、4月以降に圃場全面散布できる除草剤（茎葉処理剤）を使用した結果、後期に発生した広葉雑草が除草でき、出穂期ごろの使用であっても小麦の収量に影響はなかった。

### 内容

2013年に場内試験を実施した。供試品種はシロガネコムギ。播種日は11月21日、播種量は8.7kg/10a、栽培様式は平畝6条播・条間30cmとした。施肥窒素量は基肥：6kg/10a、追肥：2kg/10a（2014年2月18日）とした。

試験区は①初期除草剤プロスルホカルブ・リニエロン乳剤（商品名：ムギレンジャー）600ml/10a、播種後出芽前処理（2013年11月22日）（図表は「初」と略す）、②初期除草剤（①に同じ）＋バサグラン液剤（商品名：バサグラン液剤）200ml/10a、生育期処理（2014年4月23日）（図表は「初＋バ」と略す）、③無処理とした。

2014年5月の雑草量は、無処理に比べて初期除

草のみでもイネ科雑草（スズメノカタビラ、スズメノテッポウ）をよく抑えていたが、アメリカフウロ、タデ類等、除草効果の劣る草種もあった。これに4月の除草剤処理を加えると、残草していた広葉雑草がほぼ完全に除草できた（表、写真1・2）。

小麦の生育、収量への影響では、初期除草にバサグラン液剤を加えても、初期除草のみと穂数に差は無く、収量はやや増加した（図）。

### 普及上の注意事項

バサグランの小麦への使用は収穫前45日まで（その他麦類は同90日前）なので使用時期に注意する。

来田 康男（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2438）

表 無処理を100とした場合の雑草量(%)

試験区	スズメノカタビラ	スズメノテッポウ	ナスナ	ミノフスマ	タデ類	アメリカフウロ
初	6.3	0.2	3.3	1.5	6.8	89.0
初＋バ	6.3	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0
無処理	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注) 2014年5月9日調査

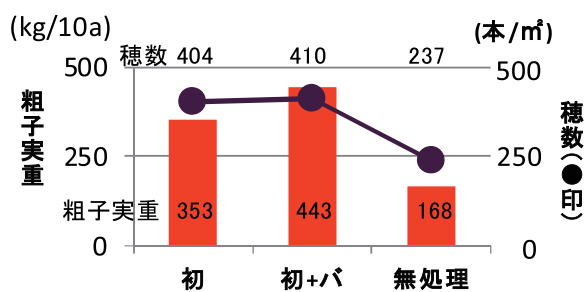


図 穂数と収量(2014)



写真1 タデ類へのバサグランの効果



写真2 アメリカフウロへのバサグランの効果